

## ダニエル書2章1-30節 「王の心の内を明らかにする方」

### 1A 夢を告げるのを要求する王 1-13

#### 1B 心の騒ぎ 1-6

#### 2B 呪法師たちの限界 7-11

### 2A ダニエルたちの祈り 14-23

#### 1B 知恵と思慮深さ 14-16

#### 2B 神への賛美 17-23

### 3A 王への返答 24-30

## 本文

ダニエル書2章を開いてください。前回1章で私たちは、ダニエルと友人三人が、王の前に連れて来られて、口述試験を受け、王に仕えることになったところを見ました。「1:20 王は、知恵と悟りに関わる事柄を彼らに尋ねたが、彼らはそのすべてにおいて、国中のどんな呪法師、呪文師よりも十倍もまさっていることが明らかになった。」とあります。2章では、このことがなおさら明らかにされます。ネブカドネツアル王が夢を見て、その夢も告げよと彼は呪法師、呪文師たちに要求します。それをする事ができませんでしたが、ダニエルたちは主に祈り、その啓示が与えられるのです。

### 1A 夢を告げるのを要求する王 1-13

#### 1B 心の騒ぎ 1-6

<sup>1</sup> ネブカドネツアルの治世の第二年に、ネブカドネツアルは何度か夢を見た。そしてそのために心が騒ぎ、彼は眠れなかった。

2章の出来事は、ネブカドネツアル王の治世第二年から始まります。彼は、カルケミシュの戦いでエジプトと戦い、メソポタミアから、イスラエル、エジプトに至る大きな地域を自分の支配下に入れました。父ナボポラッサルが死に、王に即位していました。父のものを受け継いで、この巨大な帝国を治めなければいけないという重責の中で見た夢です。主が似たようなことを、王たちに対して行なわれましたね。エジプトのパロが、これから来る大豊作と大飢饉についての食料政策を立てることができるように、二つの夢を彼に見せました。ヨセフが解き明かしました。この夢によって、神が世界的な飢饉の中で、ヤコブの家族を救うという壮大なご計画を立てておられました。

ネブカドネツアルは、一度だけでなく、何度か夢を見ています。これが、気のせいでもなく、曖昧なものでもなく、何かの啓示であると思っただけではないかと思えます。「**そのために心が騒ぎ、彼は眠れなかった**」とあります。2章の後でダニエルが明らかにしますが、これは彼の帝国から、実に神の国に至るまでの世の終わりまでの、世界の帝国の姿を示すものでありました。ものすごく

重要な内容を含むものであることは、ネブカドネツアルも薄々、感じ取っていたに違いありません。

ところで私たちが、今の時代を生きていく中で、あまりにも大きな力が、自分たちの計り知ることのできないところで動いているということをひしひしと感じますね。世界の国々が、その指導者が何を一体考えているのか、まるで分かりません。聖書を見ると、実は王たち自身も、その思いを自分自身で分かっているかという、そうでもないようです。心の内にある深い部分は、実は主なる神が動かしているということを、聖書は教えています。「箴 21:1 王の心は、【主】の手の中にあって水の流れのよう。主はみこころのままに、その向きを変えられる。」私たちは、王たちの思いを測り知ることはできなくとも、私たち神は、すべてを知っておられ、王たちの心の向きを水のように変えておられるのです。

ですから、ネブカドネツアルは、この夢によって、自分自身の心の奥にあるものを知っていくという作業をしなければいけない、ともいえるのです。それで、彼はこれまでにない要求を、呪法師や呪文師たちに突き付けます。

<sup>2</sup> そこで王は命令を出し、呪法師、呪文師、呪術者、カルデア人と呼んで、王にその夢の意味を告げるように命じた。彼らが来て王の前に立つと、<sup>3</sup> 王は彼らに言った。「私は夢を見たのだが、その夢の意味を知りたくて私の心は騒いだ。」

1章の学びで説明しましたが、バビロンには「知者」と呼ばれる学者集団が王を取り巻いていました。実際は、呪法師、呪文師、呪術者など占いをする人々です。カルデア人とは、バビロンの民族で、日本人でいうならば大和人と言っているようなものです。バビロンは、今は帝国になっていますから、いろいろな民族がいますが、生粋のバビロン人がカルデア人です。彼らには古代からの神話があり、そして、王たちはその迷信に頼りながら統治をしていました。

<sup>4</sup> カルデア人たちは、アラム語で王に告げた。「王よ、永遠に生きられますように。どうぞその夢をしもべどもにお話してください。そうすれば、私どもはその意味をお示ししましょう。」

大事な挿入句があります。「アラム語で」であります。古代シリア語です。日本語の聖書では、1章から12章まで日本語に翻訳されているので区別ができませんが、原本では1章はヘブル語、そして2章のこの部分から7章の終わりまでがアラム語、そして8章から再びヘブル語で書かれています。一つの書物を、ダニエルは二つの言語で書いたのです。

非常に奇妙であります。内容を読んでゆけば合点が行きます。ヘブル語はもちろん、イスラエル人が用いている言語です。そしてアラム語は当時、貿易する時に使われていた言葉です。国々の共通言語であり、今で言うならば英語です。ダニエルが言語を使い分けているのは、2-7章が、

イスラエルではなく国々に対しての事柄になるからです。ネブカデネザルが見た夢が、イスラエルではなく、全世界に対する内容だからです。そして 8 章以降で、その世界の動きの中でエルサレムに帰還するユダヤ人がこれからどうなっていくのかについて、ダニエルは書き記しています。だからユダヤ人が読んで、聞くことができるようにヘブル語に戻したのです。

そしてこの「ヘブル語、アラブ語、再びヘブル語」という順番は、神が救いのご計画を進められる時の順番になります。これまでは、イスラエルに神が関わり、周囲の民はイスラエルを通して神に関わりましたが、バビロン捕囚によって、イスラエルがなくなります。そこで、神は直接、主がイスラエルを選ばれ、イスラエルによってご自分を現されました。そしてユダヤ人が帰還するにあたり、再びご自分の民に関わられます。それがローマによる世界離散においても同じことが起こりました。ユダヤ人が自分たちのメシアを拒んだことによって、かえって福音が異邦人に広がりました。そして主は再びイスラエルを取り扱われるようになります。今は、ユダヤ人が約束の地に帰還しつつある今、異邦人からイスラエルに関わる時代になりつつあると言えます。「【新改訳 2017】ロマ 11:25-26 兄弟たち。あなたがたが自分を知恵のある者と考えるようにするために、この奥義を知らずにいてほしくはありません。イスラエル人の一部が頑なになったのは異邦人の満ちる時が来るまでであり、26 こうして、イスラエルはみな救われるのです。「救い出す者がシオンから現れ、ヤコブから不敬虔を除き去る。」

<sup>5</sup> 王はカルデア人たちに答えた。「私の言うことは絶対である。もし、おまえたちが私にその夢とその意味を告げることができなければ、おまえたちは手足をばらばらにされ、おまえたちの家はごみの山となる。<sup>6</sup>しかし、もし夢とその意味を示せたら、贈り物と報酬と大きな栄誉を私から受けることになる。だから、夢とその意味を私に示せ。」

夢の解き明かしだけでなく、夢も教えなさいと王は言います。彼の心の中に、この夢はただ事ではない、確かなものであることを確かめなければいけない、いい加減な解き明かしではいけないと思っただけであろうと思われます。100 歳の確証が欲しかったのだと思います。

これができなかつたら、手足を引き離させ、家を滅ぼしてごみの山とさせる、できれば、贈り物と報酬、栄誉を与えるという、ものすごい両極端になっています。彼がいかに絶対君主であるかを物語っていますが、同時に彼の真剣さがここににじみ出ています。この夢はただ事ではないが、これまでの解き明かしは、いかがわしいものであった。これはそういうものとは違う、だから、確かに夢も伝えてくれないのであれば、これまでのようにはいかない、というものです。

## 2B 呪法師たちの限界 7-11

<sup>7</sup> 彼らは再び答えた。「王が、しもべどもにその夢をお話しくださいますように。そうすれば、私どもは意味をお示ししましょう。」<sup>8</sup> 王は答えた。「私には、はっきり分かっている。おまえたちは私の言う

ことが絶対であると分かっているのに、時をかせごうとしているのだ。<sup>9</sup> もしおまえたちがその夢を私に告げないなら、おまえたちへの判決はただ一つだ。おまえたちは時が変わるまで、偽りと欺きのことを私の前に述べようと決めている。だから、どんな夢かを私に言え。そうすれば、おまえたちがその意味を示せるかどうか、私に分かるだろう。」

彼らは再び、夢を告げてほしいと願っていますが、王はだんだん忍耐が切れて、また彼らのことを疑い始めました。単に彼らが時間稼ぎをしていて、王が気の変わるのを待っているのだろう、と思ったのです。

<sup>10</sup> カルデア人たちは王の前で答えた。「この地上には、王の心のうちを明らかにできる者は一人もおりません。どんな偉大な権力のある王でも、このようなことを呪法師や呪文師、あるいはカルデア人に尋ねたことはかつてありません。<sup>11</sup> 王がお求めになっていることは、難しいことです。肉なる者と住まいをともにされない神々以外に、それを王の前に示すことができる者はおりません。」

これが彼らの限界でした。第一に、それは人としての限界です。「王の心のうちを明らかにできる者は一人もおりません。」と言っています。彼らは呪法師、呪文師であっても、人の心のうちを明らかにするのはできないし、ましてや王の心のうちは明かすことができません。しかし、神の霊はそれができます。パウロが、人の心の深みや、また神ご自身のみこころの深いところは、御霊によってのみ探ることをできると教えています。「I コリ 2:10-12 それを、神は私たちに御霊によって啓示してくださいました。御霊はすべてのことを、神の深みさえも探られるからです。<sup>11</sup> 人間のことは、その人のうちにある人間の霊のほかには、いったいだれが知っているでしょう。同じように、神のことは、神の霊のほかにはだれも知りません。<sup>12</sup> しかし私たちは、この世の霊を受けたのではなく、神からの霊を受けました。それで私たちは、神が私たちに恵みとして与えてくださったものを知るのでした。」

そして第二に、彼らの神々の限界があります。「肉なる者と住まいをともにされない神々」なのです。バビロン宗教の中では、神々はすべて「肉なる者とその住まいを共にしている」者たちです。山の神であったり、川の神、月の神であったり、自然また生き物の中に神が住んでいると考えています。しかし、王の要求することは、これら自然界を超えたところに住まわれる神でなければできない、と正直に告白しています。ここからが、生ける神の出番です。造られた物によっては分からない、その限界を超えたところにおられる方が、ネブカドネツアルに夢を与えられたのです。

イザヤ書には、40 章以降に、神がご自身を、万物を造られた方であり、初めから終わりのことを告げる方であり、永遠に生きていますことを語られます。そして、偶像の空しさもかたります。どの神々も、この方のように前もって告げることはできません。そして、先を読む力があるとする占い師も、知恵のある者も愚かにするとも言われました。「イザ 44:24-26a あなたを贖い、あなたを

母の胎内で形造った方、【主】はこう言われる。「わたしは万物を造った【主】である。わたしはひとりて天を延べ広げ、ただ、わたしだけで、地を押し広げた。25 わたしは易者のしるしを打ち壊し、占い師を狂わせ、知恵ある者を退けて、その知識を愚かにする。26a 主のしもべの**ことば**を成就させ、使者たちの計画を成し遂げさせる。」

私たちが手に持っている聖書の預言の特徴は、歴史の記録によってその成就が確認できるということです。今、イザヤが預言したことは、ペルシアのキュロス王が出て来て、ユダヤ人を解放することについての預言です。占いによって、どれほどのことが歴史に残されるでしょうか？ないですね、それだけ預言は確かなものなのです。「Ⅱペテ 1:19 また私たちは、さらに確かな預言のみことばを持っています。夜が明けて、明けの明星があなたがたの心に昇るまでは、暗い所を照らすともしびとして、それに目を留めているとよいのです。」

<sup>12</sup> 王は怒り、大いにたけり狂い、バビロンの知者をすべて滅ぼせと命じた。<sup>13</sup> この命令が発せられたので、知者たちは殺されることになった。また人々は、ダニエルとその同僚たちさえ捜して殺そうとした。

王にとっては、この夢が国の存亡にかかっている一大事だと思っていたのでしょう。それで、極端ですがそんな知者であれば要らないとみなしました。けれども、その知者たちの中には、ダニエルとその同僚たちも含まれていたのです。

## 2A ダニエルたちの祈り 14-23

### 1B 知恵と思慮深さ 14-16

<sup>14</sup> そのとき、ダニエルは、バビロンの知者たちを殺すためにやって来た王の親衛隊長アルヨクに、知恵と思慮深さをもって対応した。

再びダニエルが、知恵と思慮深さをもって対応しています。覚えていますが、1章で彼は王のごちそうによって自分の身を汚さないと心に定めて、宦官の長にそれをお願いしました。宦官の長は、もし他の少年よりも元気でないのを見たなら、私を罰するであろうとダニエルに言いました。そこでダニエルは、十日の間、野菜だけを私たちに与えて試してください、と願ったのです。

聖書には、知恵について、「知恵のことば（Ⅰコリ 12:8）」という御霊の賜物で出てきます。これは、世渡り上手のことばではなく、争いが起こったり、相反する意見が二つ出てきたりする時に、両側を納得させるような、平和をもたらす言葉です。これは、人間にはどちらか？でしかない領域なので、神の助けが必要なのです。「ヤコ 1:5 あなたがたのうちに、知恵に欠けている人がいるなら、その人は、だれにでも惜しみなく、とがめることなく与えてくださる神に求めなさい。そうすれば与えられます。」そして、その知恵についてヤコブは、3章の終わりでこう言っています。「3:17-18 しか

し、上からの知恵は、まず第一に清いものです。それから、平和で、優しく、協調性があり、あわれみと良い実満ち、偏見がなく、偽善もありません。18 義の実を結ばせる種は、平和をつくる人々によって平和のうちに蒔かれるのです。」

そして、知恵だけでなく思慮深さをもって対応していますね。彼は上にいる人々を敬い、自分自身を慎み深く考えていました。私たちは、ローマ 12 章で教会における賜物についても、慎み深さが必要であることを学びましたね。「12:3 私は、自分に与えられた恵みによって、あなたがた一人ひとりに言います。思うべき限度を超えて思い上がってははいけません。むしろ、神が各自に分け与えてくださった信仰の量りに応じて、慎み深く考えなさい。」世の終わりの時に、私たちは世において、このような、平和をもたらす知恵と、また相手を敬う思慮深さが必要なのです。

<sup>15</sup> 彼は王の全権を受けたアルヨクにこう言った。「どうしてこんなに急な命令が王から出たのでしょうか。」すると、アルヨクは事の次第をダニエルに知らせた。<sup>16</sup> そこでダニエルは王のところに行き、王にその夢の意味を示すため、しばらくの時を与えてくれるよう願った。

ダニエルは、王のことを愛していることが分かります。「王にその夢の意味を示すため」に、しばらくの時を与えてくれるように願いました。もちろん、ここで示されなければ、真っ先に自分たちが殺されます。けれども、王のことを思って願い出たのです。

## 2B 神への賛美 17-23

<sup>17</sup> それからダニエルは自分の家に帰り、自分の同僚のハナンヤ、ミシャエル、アザルヤにこのことを知らせた。<sup>18</sup> それは、ダニエルとその同僚たちがほかのバビロンの知者たちと一緒に滅ぼされることがないように、この秘密について天の神にあわれみを乞うためであった。

時間制限付きの、緊急祈禱会を開きました。彼らは、本来は、バビロンの知者たちと違って、この地上を住まいとしている神々ではないのですが、けれども、もしそうでないことを証明しなければ、結局のところ同じように滅ぼされてしまいます。ですから、彼らは、神々を超えた方、「天の神」に憐れみを請います。これから、ダニエル書には、カルデア人の神々と対比して、天の神、天におられる神として紹介されます。詩篇にて、この違いを比べている箇所があります。「115:2-7 なぜ国々は言うのか。「彼らの神はいったいどこにいるのか」と。3 私たちの神は天におられその望むところをことごとく行われる。4 彼らの偶像は銀や金。人の手のわざにすぎない。5 口があっても語れず目があっても見えない。6 耳があっても聞こえず鼻があっても嗅げない。7 手があってもさわれず足があっても歩けない。喉があっても声をたてることができない。」これだけの違いがあります。ですから、ここでダニエルたちは、その違いを示さないといけない。だから、憐れみが必要だったのです。

宣教地では、このような神々の対決のようなことを、宣教師がせざるを得ないときがあります。他の魔術師では決して癒されなかった人が連れて来られて、「あなたの神は天地万物の神なのだろう。ならば、治せる。」と言われることはよくあるのです。そう教えているのだから、祈らざるを得ないですね。私たちは、同じようにして他の人々がしていることではない、まことの神だからこそできることがあり、それを行ってくださるように憐れみを請う必要がありますね。

<sup>19</sup> そのとき、夜の幻のうちにこの秘密がダニエルに明らかにされた。ダニエルは天の神をほめたたえた。<sup>20</sup> ダニエルはこう言った。「神の御名はほむべきかな。とこしえからとこしえまで。知恵と力は神のもの。<sup>21</sup> 神は季節と時を変え、王を廃し、王を立てる。知恵を授けて賢者とし、知識を授けて悟りのある者とされる。<sup>22</sup> 神は、深遠なこと、隠されていることを明らかにし、闇の中に何かあるかを知り、ご自分の内に光を宿される。<sup>23</sup> 私の父祖の神よ。私はあなたに感謝し、あなたを賛美します。あなたは私に知恵と力を授け、今、私たちが尋ねたことを私に明かし、王の心のうちを 私たちに明かしてくださいました。」

ダニエルはほめたたえました。この賛美の祈りには、他の聖書の箇所が反映されています。<sup>20</sup> 節の、「神の御名はほむべきかな。とこしえからとこしえまで。」は、ダビデが民の前で賛美した時の言葉が、歴代誌第一 29 章 10 節にあります。そして、知恵と力が神にあるということは、ヨブ記 12 章 13 節、王が立てられる、倒される、また暗黒にあるものを光に出すということは、ヨブ記 12 章 21-24 節にあります。ダニエルは、幼い時から聖書に親しんでいて、御言葉によって祈りを献げた人でした。同じような人でイエス様の母マリアがいますが、彼女が身ごもった時に神をほめたたえた賛歌は、サムエルを身ごもったハンナの賛歌などが色濃く反映されています。

そしてその中身ですが、「知恵と力は神のもの。」と初めに言っています。この世において、王たちがどのように国を治めていくのか、世界をどう動かすのか、それは知恵に基づいており、また力あってこそ可能であります。けれども、私たちの神は、天地を造られた時に、その知恵と力によって世界を造られました。その知恵と力によって、神は王たちの心を変えられるのです。

次に、「神は季節と時を変え」られるとほめたたえています。世界が、その時代が変わる時があります。これまでの秩序が終わり、新しい秩序へと移行する時期があります。これも、私たちの思いをはるかに越えて、全く抗えないように思えます。ダニエルであれば、もはや、エルサレムの神殿で礼拝する時代は過ぎ去ってしまったのです。しかし、そういったことも、神ご自身が変わられているのです。

そして、「王を廃し、王を立てる」のも神です。「存在している権威はすべて、神によって立てられている」とあります(ローマ 13:1)。このことは、ネブカドネツアル自身が痛い思いをして学びます。彼は自分の権力と栄華を誇った時に、獣のようにされてしまいました。彼が立っているのは神がお

られるからであり、いつでも倒されるのです。これからの幻では、バビロンからペルシアへ、ペルシアからギリシアへ、ギリシアからローマ、そして神の国に至る幻です。主が立て、倒されます。そして季節や時を変えられます。そこには神の知恵と力が隠されています。

ここまでは主に権力者を神が支配しておられることでありましたが、次は賢者をも神が支配しておられることをほめたたえています。「知恵を授けて賢者とし、知識を授けて悟りのある者とされる。」とありますが、神が知恵と知識を与えない限り、その人は知るべきことも知ることができないのです。今、呪法師や呪文師が知りようのないことが分かりました。人にも、地上にあるいかなるものも、神にしか分からないことなのです。知恵者と言えば、ソロモンですが、彼は知恵と知識を追求して、空しいと訴えていました。伝道者の書で最後にこう言っています。「12:12 神を恐れよ。神の命令を守れ。これが人間にとってすべてである。」自分たちの知恵に頼らず、神を恐れるのです。そこにこそ知恵があります。

そして、「<sup>22</sup> 神は、深遠なこと、隠されていることを明らかにし、闇の中に何があるかを知り、ご自分の内に光を宿される。」ここですね、王の心のうちという、深遠なことを神は明らかにされました。人には、到底、分かりようがないこと、その隠されていることも、神はご自分の光のところに持ってこられて、明らかにされます。これからダニエルが王に伝える夢がそれですね。そしてキリストは、私たちの光となって下さり、世の知者はこの方を知ることはありませんでした。

そして、「私の父祖の神よ。私はあなたに感謝し、あなたを賛美します。」と賛美して、この神が確かに、イスラエルの神、アブラハム、イサク、ヤコブの神であることを言い表しています。父祖たちに神は約束と契約を与えられたのです。今、バビロンにいますが、神は変わることなく、バビロンにいるダニエルにも働いてくださっています。異教の社会の中にあっても、私たちに新しい契約と約束が与えられているのと同じです。

そして最後に、ダニエルは、「王の心のうちを 私たちに明かしてくださいました。」と言っています。王自身にさえ分からなかった心のうちが、明らかにされたということです。

### **3A 王への返答 24-30**

<sup>24</sup> それでダニエルは、王がバビロンの知者たちを滅ぼすために任じたアルヨクのもとに行き、彼にこう言った。「バビロンの知者たちを滅ぼしてはなりません。私を王の前に連れて行ってください。私が王に夢の意味をお示します。」<sup>25</sup> そこで、アルヨクは急いでダニエルを王の前に連れて行き、王にこう言った。「ユダからの捕虜の中に、王に夢の意味を告げることができる男を見つけました。」

カルデア人たちを王は初めに召していましたが、今は、カルデア人ではなく、ユダからの捕虜でありました。このことが、後から妬みになります。ダニエルの友人三人が、ネブカドネツアルに告げ

口して、彼らがユダヤ人であると言っています。(3:12)

<sup>26</sup> それで王は、ベルテシャツアルという名のダニエルに言った。「私が見た夢とその意味を、本当に私に告げることができるのか。」<sup>27</sup> ダニエルは王に答えた。「王が求めておられる秘密を王にお示しすることは、知者や、呪文師、呪法師、占星術師などにはできません。<sup>28</sup> しかし天に秘密を明らかにするひとりの神がおられます。この方が終わりの日に起こることをネブカドネツアル王に示されたのです。あなたの夢、寝床であなたの頭に浮かんだ幻は次のとおりです。

エジプトのヨセフが、ファラオの夢を解き明かしたのと似ています。自分が夢を告げ、自分がその意味を告げるのではなく、天におられる神なのだ、神を証していることです。ここにおいて、ダニエルのへりくだりと、同時に大胆さがあります。ダニエルは、この時にこそ大胆になり、「知者や、呪文師、呪法師、占星術師」には、できないことなのだとはっきりと伝えています。これが、平素の時に話したら、とんでもない差別発言、バビロンの知者たちを愚弄していると思われるかもしれません。けれども、ペテロがサンヘドリンで、天下にはイエスの名の他に救われるべき名としてはないのだと大胆に言ったように、ここでも、人間の知恵や占いではできないことなのだ、とはっきり述べています。

そして、驚くことは、「この方が終わりの日に起こることをネブカドネツアル王に示されたのです。」ということです。バビロンの王から始まって終わりの日に至るまでの夢であったのです。そしてダニエル書を読み進めると、この内容がさらに発展し、詳細に啓示されています。バビロンという昔のこの話ではなく、現代に至り、そして主が再臨される将来にまでつながる鳥瞰的な幻です。このようなことを、神々がどうして伝えることができるでしょうか？世の中の預言者と呼ぶ者たちが伝えることができるでしょうか？しかし、聖書の預言者たちはそれができています。なぜなら、天の神が秘密を明かしておられるからです。

<sup>29</sup> 王よ。あなたが寝床で思い浮かべていたのは、これから起こることです。秘密を明らかにされる方が、これから起こることをお示しになったのです。<sup>30</sup> この秘密が私に明らかにされたのは、すべての生ける者にまさって私に知恵があるからではなく、その意味が王に告げられることによって、あなたの心の思いをご自身がお知りになるためです。

すばらしいですね、自分自身に知恵があるからではない、むしろ神が王の心にあることを知ることができるようになるためだ、とダニエルは伝えています。ここにダニエルの賢さ、へりくだり、王への敬いがすべて詰まっていますね。王のことを思って語っています。そして、これからのことなのだとして、王が統治するのに傾聴に値するのだと助言しています。こうやって、ダニエルは、神から賜物が与えられ、それを世において証しを立てることによって行いました。

私たちは、前回、ローマ 13 章で、今がどのような時かを知っているのだとパウロが語っていました。聖書預言にある神の終わりの時までのご計画が、すでに聖書によって知らされているからです。イエス様は、預言を実現するために十字架につけられ、よみがえられました。同じように、再臨されるにあたって、預言を実現するために行われるのです。この時代に生きています。そして、御霊の力によって、キリストを証して行きます。この方が、他の何にもまさっているということを証します。そして、聖霊の力によって、一人ひとりがその心の内が明らかにされ、それで主の前にひれ伏すようになります。